

資料3-18 三重県における赤潮発生状況（平成21年1月～12月）

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
1 (K-1)	2.16-2.17	熊野灘北部 (尾鷲湾・引本湾)	<i>Alexandrium catenella</i>	2.16 に尾鷲湾大曾根で着色域が確認され、最高密度は2m 層の125cells/mlであった。2.17には、尾鷲湾と引本湾で着色域が確認され、最高密度はそれぞれ尾鷲湾大曾根 2m 層で213cells/ml、引本湾矢口 0m 層で3cells/mlであった。2.24には白石湖の湾央および湾奥の5m 層で2cells/ml が確認された（着色域は無し）。発生期間中の最高密度が確認された 2.17 大曾根 2m 層の水温は、15.5℃であった。なお、2.25 に採取した尾鷲湾大曾根（黒の浜）のアサリからは2.8MU/g、同じ日に採取した白石湖のマガキからは15.9MU の麻痺性貝毒が検出された。	不明	0~2m	A.c. 213	無	尾鷲水産研究室 尾鷲水産室
2 (I-1)	5.12	伊勢湾 (北東部)	<i>Skeletonema costatum</i>	伊勢湾北東部の海域で <i>Skeletonema costatum</i> による赤潮が確認された。	>402	0m	S.c. 91,600	無	愛知県水産試験場
3 (K-2)	5.13-5.14	熊野灘北部 (尾鷲湾・引本湾)	微小珪藻類 (種は不明)	5.13~14 に尾鷲湾の大曾根、古里地先および引本湾で着色域が確認され、最高密度は0m 層の33,000cells/mlであった。プランクトンは10~15・mの微小珪藻類が主体であった。なお、漁業被害はなかった。	不明	0~2m	微小珪藻類 33,000	無	尾鷲水産室
4 (S-1)	5.20	志摩度会 (南伊勢町 奈屋浦地先)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.20 に南伊勢町奈屋浦地先で着色域が確認され、最高密度は15,000cells/mlであった。周辺では魚類養殖が行われているが、被害はなかった。	不明	0m	H.a. 15,000	無	南伊勢町水産種 苗生産施設南島 種苗センター
5 (I-2)	5.30-6.2	伊勢湾 (北東部)	<i>Skeletonema costatum</i>	5.30 に伊勢湾北東部の海域で変色しているのを確認。6.2 の調査の結果、構成種が <i>Skeletonema costatum</i> であり、伊勢湾北東部海域全域で確認された。	>402	0m	S.c. 96,250	無	愛知県水産試験場

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
6 (S-2)	6.25-6.26	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>  <i>Chaetoceros</i> spp.	6.25～26 に英虞湾の鵜方周辺海域で <i>Heterosigma akashiwo</i> と <i>Chaetoceros</i> 属による複合赤潮が確認された。発生海域周辺ではアコヤガイなど二枚貝類の養殖が行われているが、被害はなかった。	不明	0m	H.a. 14,800  C.spp. 18,300	無	水産研究所
7 (S-3)	7.6-7.13	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	7.6 に英虞湾において <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が確認された。この赤潮は 7.13 まで継続して確認された。最高密度は 7.7 の宮ヶ崎 3.9m 層 (B-1m 層) における 2,125 細胞/ml であった。分布層は中～底層中心 ( <i>Heterocapsa circularisquama</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮とした)。	不明	5m 以深 (中～底層)	H.c. 2,125	無	水産研究所
8 (S-4)	7.14-7.27	志摩度会 (英虞湾)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	<i>Heterocapsa circularisquama</i> が減少した 7 月中旬以降、英虞湾では <i>Prorocentrum dentatum</i> の増殖が顕著となり、高密度で出現。最高密度は 7.27 の又吉前 6.5m 層における 11,050 細胞/ml であった。分布層は中～底層中心。	不明	5m 以深 (中～底層)	P.d. 11,050	無	水産研究所
9 (S-5)	7.22	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	7.22 に阿曾浦(この浦)において <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が確認された。最高密度は、この浦奥の 3m 層における 450 細胞/ml であった ( <i>Heterocapsa circularisquama</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮とした)。翌日実施した調査では最高密度は 60 細胞/ml (5m 層) にまで減少していた。	不明	0～5m	H.c. 450	無	水産研究所 南島種苗センター
10 (I-3)	7.27	伊勢湾 (北東部)	<i>Skeletonema costatum</i>  <i>Leptocylindrus danicus</i>	常滑市小鈴谷以北の伊勢湾北東の海域で <i>Skeletonema costatum</i> と <i>Leptocylindrus danicus</i> による赤潮が確認された。	>96	0m	S.c. 67,750  L.d. 5,650	無	愛知県水産試験場

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
11 (K-3)	7.27-8.5	熊野灘北部 (引本湾)	<i>Gonyaulax polygramma</i>  <i>Prorocentrum minimum</i>	7.27 から 8.5 にかけて、引本湾において <i>Gonyaulax polygramma</i> と <i>Prorocentrum minimum</i> による赤潮が確認された。最高密度は <i>Gonyaulax polygramma</i> で 9,430 細胞/ml (矢口浦 0m 層)、 <i>Prorocentrum minimum</i> で 2,800 細胞/ml (ムナシ 0m 層) であった。漁業被害はなかった。	不明	0m	G.p. 9,430 P.m. 2,800	無	水産研究所(尾鷲水産研究室)
12 (K-4)	7.30-8.5	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Gonyaulax polygramma</i>	7.30 から 8.5 にかけて尾鷲湾において <i>Gonyaulax polygramma</i> による赤潮が確認された。最高密度は 1,740 細胞/ml (大曾根 0m 層) であった。漁業被害はなかった。	不明	0m	G.p. 1,740	無	水産研究所(尾鷲水産研究室)
13 (S-6)	8.3	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	7 月中旬に一旦減少した <i>Heterocapsa circularisquama</i> が 8.3 に再び増加した。ただし、高密度出現海域は局所的で、湾奥部の又吉前~宮ヶ崎の底層に限られた。最高密度は宮ヶ崎 3.8m 層 (B-1m 層) における 108 細胞/ml であった。この赤潮も 8.9 の調査時には消滅していた ( <i>Heterocapsa circularisquama</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮とした)。	不明	B-1m	H.c. 108	無	水産研究所
14 (I-4)	8.5	伊勢湾 (東部)	<i>Skeletonema costatum</i>	8.5 に伊勢湾東部で <i>Skeletonema costatum</i> による赤潮が確認された。知多半島よりの海域でクロロフィル値が高く、濃厚であった。	>387	0m	S.c. 90,300	無	愛知県水産試験場
15 (I-5)	8.17	伊勢湾 (南部)	<i>Noctiluca scintillans</i>	8.7 に伊勢湾南部で <i>Noctiluca scintillans</i> による赤潮が確認された。	>79	0m	N.c. 不明	無	愛知県水産試験場

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
16 (S-7)	8.17-8.24	志摩度会 (英虞湾)	<i>Takayama pulchellum</i>	8.17 から 8.24 に英虞湾奥部の鵜方周辺海域で <i>Takayama pulchellum</i> による赤潮が確認された。最高密度は 1,275 細胞/ml (ヒオウギ荘前 0m 層) であった。漁業被害はなかった。	不明	0m	T.p. 1,275	無	水産研究所
17 (S-8)	8.31-9.1	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Chattonella marina</i> <i>Dictyocha fibula</i> <i>Takayama pulchellum</i>	8.31 から 9.1 にかけて、阿曾浦地先の道方浦 (通称: あちの浦) で <i>Chattonella marina</i> 、 <i>Takayama pulchellum</i> および <i>Dictyocha fibula</i> を構成種とする混合赤潮が確認された。最高密度は <i>Chattonella marina</i> で 1,230 細胞/ml (阿曾の 3m 層)、 <i>Takayama pulchellum</i> で 1,240 細胞/ml (大江 1m 層)、 <i>Dictyocha fibula</i> で 3,450 細胞/ml (大江 3m 層) であった。漁業被害はなく、また周辺海域への拡大も見られなかった。	不明	0~5m 層	C.m. 1,230 D.f. 3,450 T.p. 1,240	無	水産研究所 南島種苗センター
18 (I-6)	9.1	伊勢湾 (北東部)	<i>Chaetoceros</i> spp. <i>Nitzschia</i> spp. <i>Thalassiosira</i> spp.	伊勢湾北東部の海域で、 <i>Chaetoceros</i> 属を主体とする珪藻赤潮が確認された。	>35	0m	C. spp. 14,300 N. spp. 2,525 T. spp. 1,620	無	愛知県水産試験場
19 (S-9)	9.11-9.14	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i> <i>Chattonella marina</i>	9.11 に五ヶ所湾の迫間浦地先で <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高密度は 16,400 細胞/ml (0m 層) であった。また、低密度ながら <i>Chattonella marina</i> も出現していた (最高密度は 60 細胞/ml)。周辺海域では魚類養殖が行われていたが、目立った被害はなかった。	不明	0m	H.a. 16,400 C.m. 35	無	水産研究所 くまの灘漁協 伊勢水産室

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
20 (I-7)	9.29	伊勢湾 (北西部)	<i>Chaetoceros</i> spp.	9.29 に伊勢湾北西部の鈴鹿市沿岸を中心に <i>Chaetoceros</i> spp.による赤潮が確認された。最高密度は下箕田沖の 12,000 細胞/mlであった。漁業被害はなかった。	不明	0m	C. spp. 12,000	無	水産研究所 鈴鹿水産研究室
21 (I-8)	10.5	伊勢湾 (北東部)	<i>Skeletonema costatum</i>  <i>Chaetoceros</i> spp.	10.5 に空港島より北の北東部海域で、 <i>Skeletonema costatum</i> と <i>Chaetoceros</i> spp.による珪藻赤潮が確認された。	>35	0m	S.c. 21,450  C. spp. 6,500	無	愛知県水産試験場
22 (S-10)	10.12 -10.14	志摩度会 (英虞湾)	<i>Skeletonema costatum</i>  <i>Nitzschia</i> spp.	10.8 に通過した台風 18 号による出水の影響で、英虞湾全域の表層で珪藻類が顕著に増加し、赤潮を形成した。主な構成種は <i>Skeletonema costatum</i> と <i>Nitzschia</i> spp.であった。漁業被害はなかった。	不明	0~5m	S.c. 34,150  N. spp. 16,750	無	水産研究所
23 (I-9)	10.15	伊勢湾 (東部)	<i>Skeletonema costatum</i>  <i>Nitzschia</i> spp.  <i>Chaetoceros</i> spp.	10.15 に伊勢湾東部の小鈴谷沖から内海沖にかけて、 <i>Skeletonema costatum</i> を主体とする珪藻赤潮が確認された。	>67	0m	S.c. 23,400 N. spp. 2,900 C. spp. 3,000	無	愛知県知多農林 水産事務所

【備考】

1. *H.circularisquama* は 100cells/ml 以上、*Chattonella marina* は 10 cells/ml 以上、*Gonyaulax polygramma* は 1,000cells/ml 以上を赤潮として取り扱った。

【注】

1. 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、( ) 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、K はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)
2. 2 あるいは 3 海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば 2 つの海域にまたがって発生した場合は、1 つの発生に対して 2 つの整理番号を与え、発生件数は 2 件とカウントした。
3. 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅（一時的な細胞数の減少）を繰り返したもののについては、最初の発生から最後の発生まで（完全な赤潮の終息まで）を 1 単位として記載した。